慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Preface
Sub Title	
Author	冨田, 勝(Tomita, Masaru)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	2012
Jtitle	生命と情報 No.19 (2012.) ,p.6- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス先端生命科学研究会 2012年度学生論文集
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO92001004-00000019-0006

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Preface

本論文集は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）先端生命科学研究室および鶴岡タウンキャンパス（TTCK）先端生命科学研究所の学生論文要旨集です。

2012年度も多くの学生が活躍して様々なアワードを受賞しました。

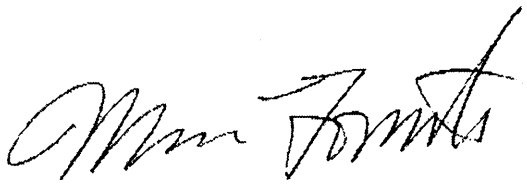
石井千晴君（修士１年）が、米サンアントニオで行われた国際Probiotics学会においてStudent Poster部門で最優秀賞を受賞したため、村上慎之介君（修士２年）が、湯野浜温泉（鶴岡市）の源泉から世界最小の微生物を発見し、テレビ、ラジオ、新聞で報道されたためにそれぞれSFCアワードを受賞しました。また、上瀧萌君（環境４年）の卒業論文が、優秀卒業プロジェクトとしてSFCアワードを受賞しました。

加えて大下和希君（修士２年）、田中美穂君（修士２年）が優秀修士論文として湘南藤沢学会からそれぞれ出版されました。研究室内の表彰としては、野崎慎君（修士２年）が優秀修士論文賞、臼居優希君（環境３年）が優秀賞、牧野岳都君（環境２年）、山本香織君（環境２年）、森秀人君（環境１年）、森本健太君（環境１年）が奨励賞をそれぞれ受賞いたしました。おめでとうございます。

バイオインフォマティクスと実験生物学の融合を目指して、2001年4月に山形県の慶應大学鶴岡キャンパスに先端生命科学研究所を開設してから、今年で12年目になります。2007年度からSFC大学院の政策メディア研究科の「バイオインフォマティクスプログラム」は「先端生命科学プログラム（英語名：　Systems Biology Program）」に改名し、また環境情報学部でもバイオ系科目が充実しました。このカリキュラムの目玉はなんと言っても、一年間鶴岡キャンパスに滞在して毎日実験実習を集中的に体験できる「バイオキャンプ」です。毎学期１６人程度の学生が参加していますが、バイオキャンプに参加した学生のうち多くはその後も鶴岡に短期・長期に滞在し、世界最先端の施設を利用してバイオ実験を行っています。

システム生物学という新たな切り口で先端技術を開発し、それらを駆使して生命科学、医学、環境科学のブレイクスルーを目指す。それはチャレンジングでとても楽しいことであり、なにものにも替えがたい究極の贅沢だと考えています。

“Science is ultimate amusement”

2013年3月吉日

冨田　勝